

Comparison

被災比較

昭和44年8月、台風通過の影響で富山県東部山岳地帯に総雨量100～150mmの大雨が降り、続いて前線の南下で山岳地帯に500mmを越す集中豪雨がありました。ちなみに、平成7年7月の集中豪雨による県東部の雨量は宇奈月町で330mm、立山で447mm（11日午前零時から12日午後6時まで）に達し、昭和44年以来の雨量でした。昭和44年の集中豪雨で

黒部川は上流の祖母谷第1号砂防ダムが一挙に埋まり、下流では入善町で堤防が決壊し、宇奈月町愛本の愛本橋が流出、愛本えん堤からあふれた濁流が住宅地域にも流れ込みました。平成7年の集中豪雨では黒部川上流で、地形さえ変える大規模な地滑りや大崩壊が発生したにも関わらず、宇奈月町や入善町、黒部市には一切被害が発生しませんでした。

昭和44年



●濁流に洗われる砂防ダム



●祖母谷温泉への橋も流失

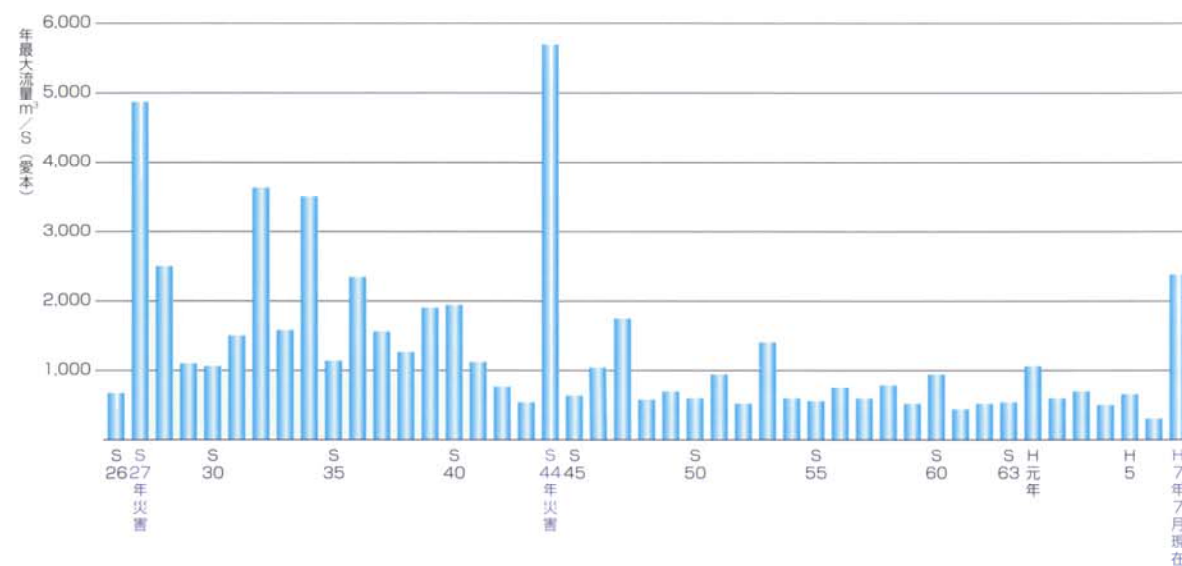


●冠水した愛本えん堤



●宇奈月町愛本の被災状況

年最大流量



平成7年



●土砂に埋った線路（猫又）



●流されたショベルカー



●土砂に埋った猿飛峡遊歩道



●えぐりとられた路盤



●湯元黒薙地区（埋没した泉源）

一瞬にして全てを無にする、
自然の恐ろしさ。

崩壊の面積比率日本一といわれる黒部川上流域。平成7年7月の集中豪雨により、猫又谷であらたな崩壊が起こり、発電・観光施設に多大な被害が生じました。



さらにその後の調査で黒部川上流の支流・祖父谷などで大規模な崩壊が発生していることがわかりました。崩壊土砂量は約百万立方メートルと推定され、崩落土が谷をせき止め、上流に小さな湖が出来ています。



愛本えん堤流入量と猫又観測所降水量

